

守口市人口推計報告書

令和2年3月

守口市

< 目 次 >

| | |
|----------------------------|----|
| 1. 推計方法..... | 1 |
| (1) 目的..... | 1 |
| (2) 推計期間..... | 1 |
| (3) 基準人口..... | 1 |
| (4) 推計手法..... | 1 |
| 2. 推計結果(市全体)..... | 2 |
| (1) 市全体の人口推計..... | 2 |
| ① 市全体の総人口の推移..... | 2 |
| ② 年齢4区分の人口比率の推移..... | 4 |
| (2) 全国・大阪府の将来推計人口との比較..... | 5 |
| 3. 推計結果(地域別)..... | 8 |
| (1) 方法..... | 8 |
| (2) 結果..... | 9 |
| ① 3地域の総人口の推移..... | 9 |
| ② 東部地域..... | 10 |
| ③ 中部地域..... | 12 |
| ④ 南部地域..... | 14 |
| ⑤ 3地域の比較..... | 16 |
| 4. 推計の詳細..... | 18 |
| (1) 概要..... | 18 |
| (2) 1歳以上の各年齢別人口の推計..... | 18 |
| (3) 0歳人口の推計..... | 19 |

1. 推計方法

(1)目的

守口市の今後の人口を推計することで、第6次総合基本計画策定において将来を考える基礎資料とする。

(2)推計期間

人口推計の期間は、令和2（2020）年から令和22（2040）年とする。

第6次総合計画の期間は令和12（2030）年までだが、将来を見通すために令和22（2040）年まで推計を行う。

(3)基準人口

基準となる人口は、令和元（2019）年9月末日現在の守口市住民基本台帳とする。

(4)推計手法

同年に出生した集団（コーホート）ごとに、過去における実績人口の動勢から「変化率」を求め、それに基づき将来人口を推計する「コーホート変化率法」を用いて推計する。

本推計では、男女年齢別人口の推移を1年刻みで推計する。

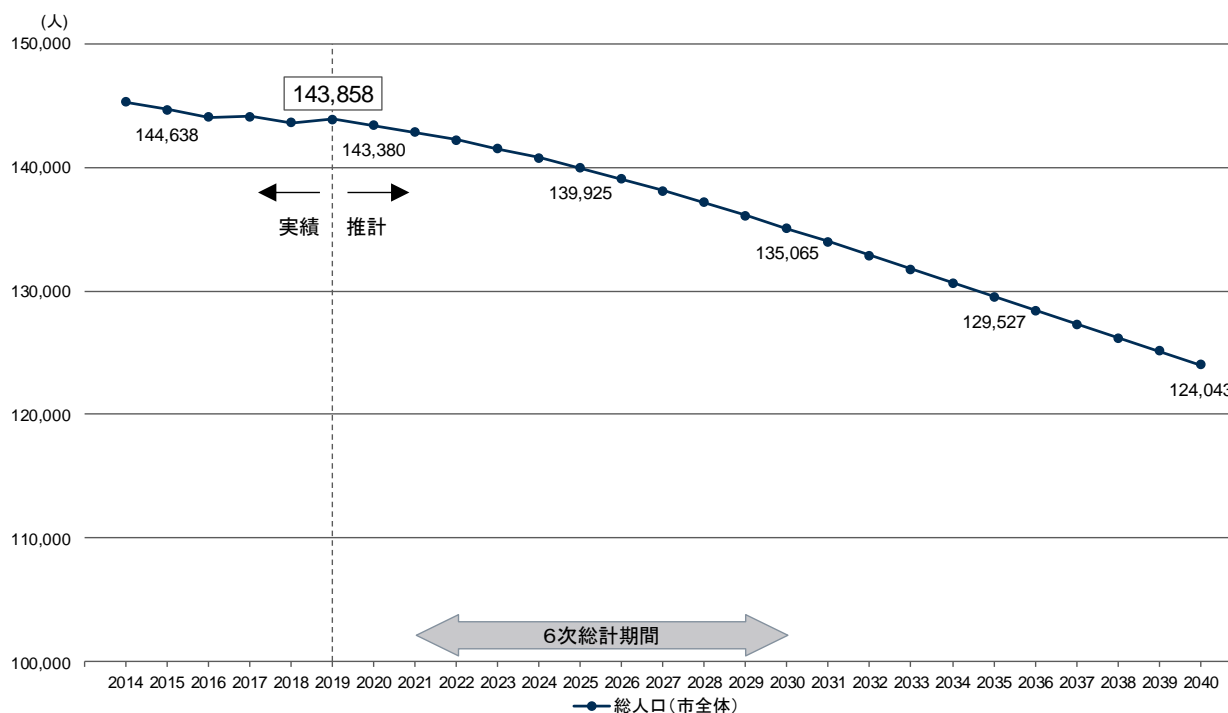
2. 推計結果（市全体）

(1)市全体の人口推計

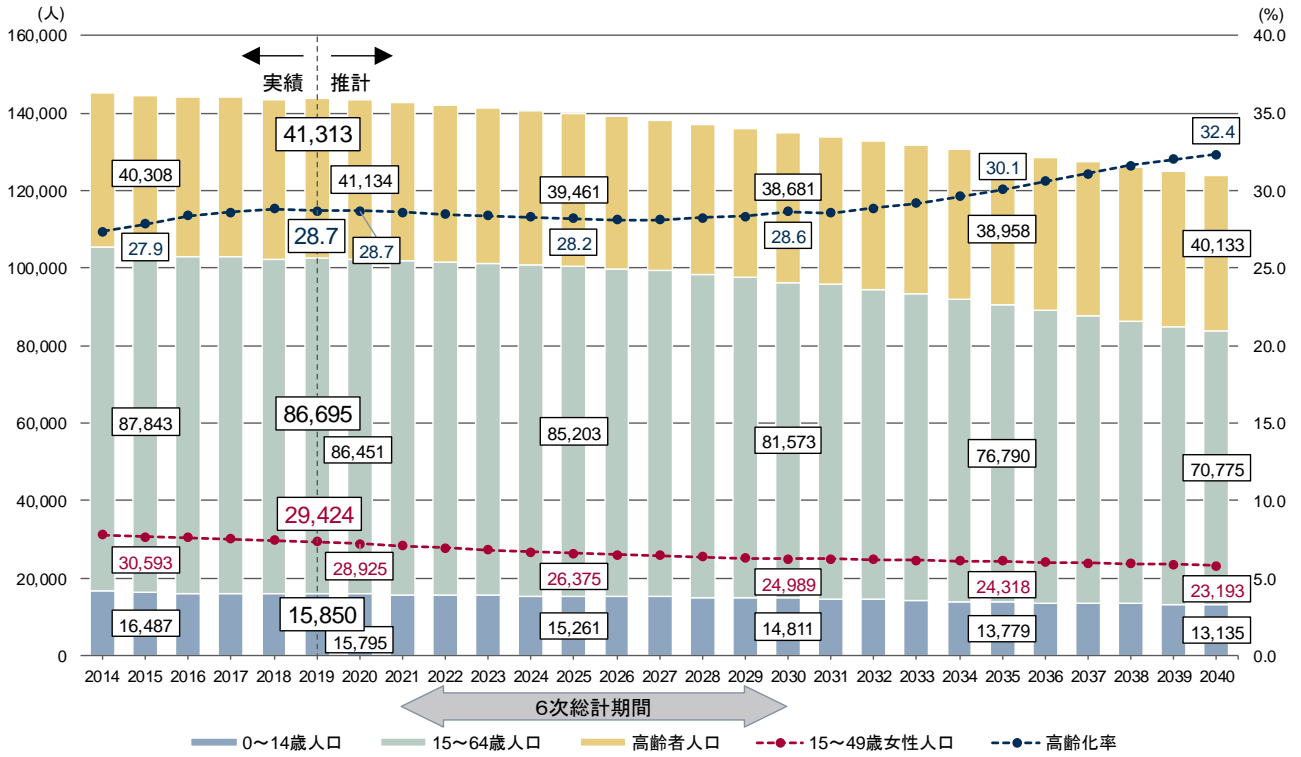
①市全体の総人口の推移

- 守口市全体の総人口は、2040年には2019年の143,858人より約2万人減少し、124,043人となる見込みである。
 - 年少人口（0歳～14歳）：2019年15,850人→2040年13,135人
 - 生産年齢人口（15歳～64歳）：2019年86,695人→2040年70,775人
 - 高齢者人口（65歳以上）：2019年41,313人→2040年40,133人
 - 15歳～49歳女性人口：2019年29,424人→2040年23,193人
- 高齢化率は2019年時点で28.7%で、2020年代は横ばいが続くが、2030年代より再び増加し、2040年には32.4%になる見込みである。

図表－1 総人口の推移



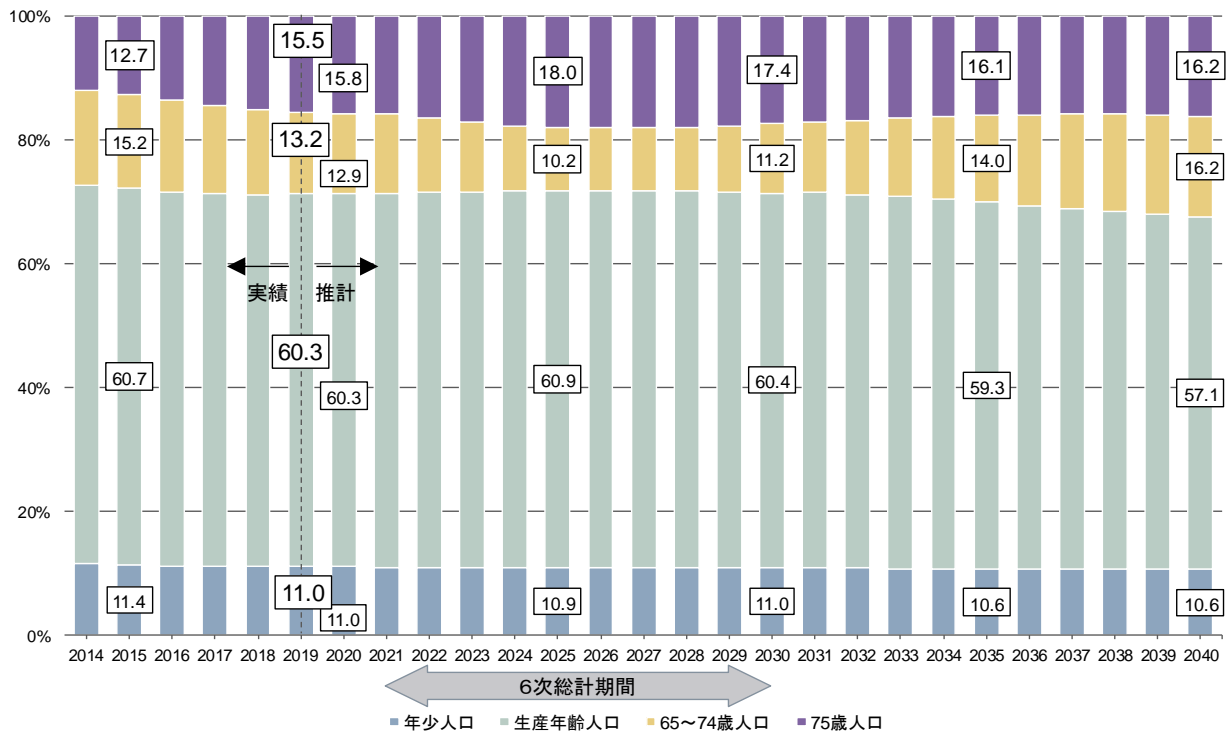
図表-2 年齢3区分人口、15~49歳女性人口、高齢化率の推移



②年齢4区分の人口比率の推移

- 年少人口比率は、2019年時点の11%からほぼ横ばいが続くことが見込まれる。
- 生産年齢人口比率は2019年の60.3%から2030年まではほぼ横ばいだが、2030年より減少し、2040年には57.1%と60%を下回っている見込みである。
- 団塊の世代が全て後期高齢者になる2025年頃には75歳以上人口比率がピークを迎え、18%を超える見込みである。団塊ジュニア世代が65歳以上となる2035年頃より、65歳～74歳人口比率が増加し、2040年には65歳～74歳人口比率、75歳以上人口比率が同程度となる。

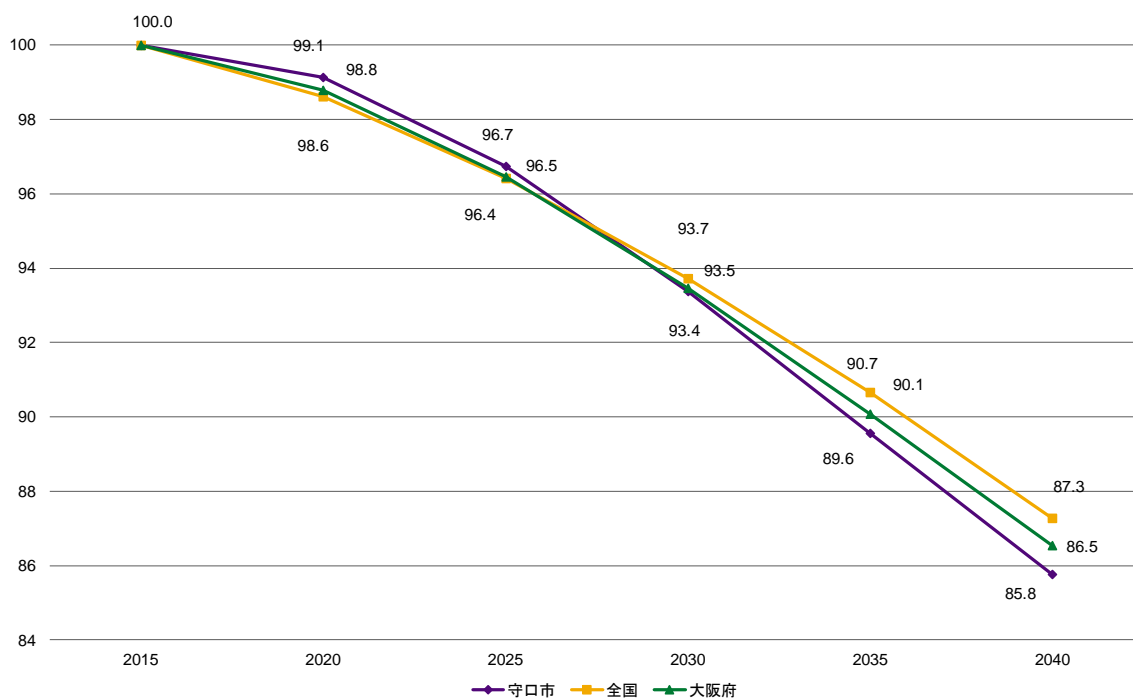
図表一3 年齢4区分人口比率の推移



(2) 全国・大阪府の将来推計人口との比較

- 2015年の人口を100とし、守口市の将来推計人口と全国、大阪府との将来推計人口の変化を比較すると、2025年までは守口市は全国や大阪府に比べ減少がやや緩やかだが、2030年以降全国や大阪府に比べ、減少が大きくなると見込まれる。

図表-4 全国および大阪府の将来推計人口の推移と比較



※2015年の人口を100とした場合の指数の変化。

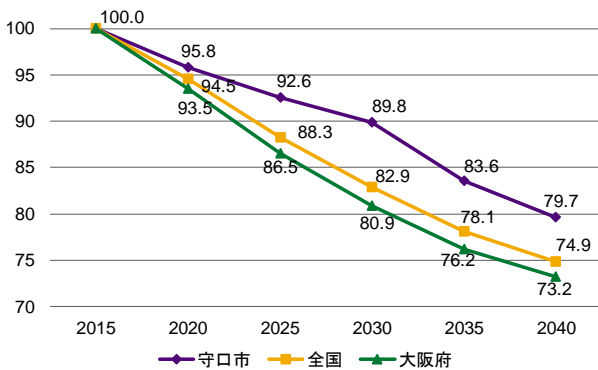
※「全国」と「大阪府」は国立社会保障・人口問題研究所による推計値。

(資料)『日本の市区町村別将来推計人口(平成29年推計)』国立社会保障・人口問題研究所

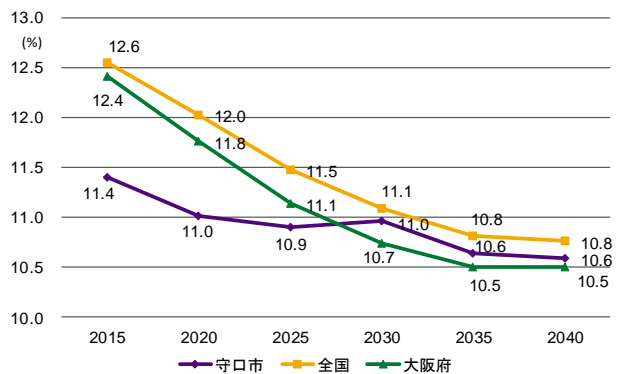
【年少人口（0歳～14歳）】

- 2015年からの変化では、守口市は全国や大阪府に比べ、年少人口の減少が緩やかとなる見込みである。
- 守口市では、2015年の年少人口比率が全国や大阪府を下回っているが、全国や大阪府の年少人口比率が減少する2020年から2030年にかけて、守口市では横ばい傾向となり、2040年には年少人口比率が全国や大阪府と同水準になる。

図表-5 全国および大阪府の年少人口の将来推計人口の推移と比較



図表-6 全国および大阪府の年少人口比率の推移と比較

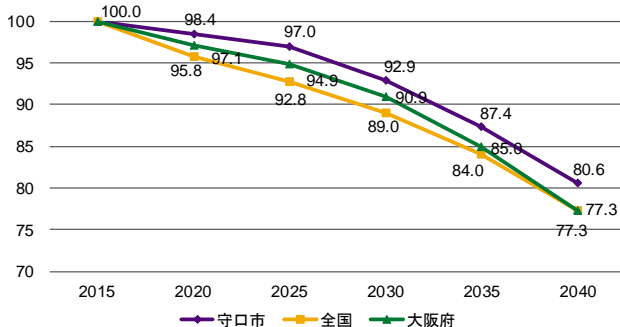


※2015年の人口を100とした場合の指数の変化。

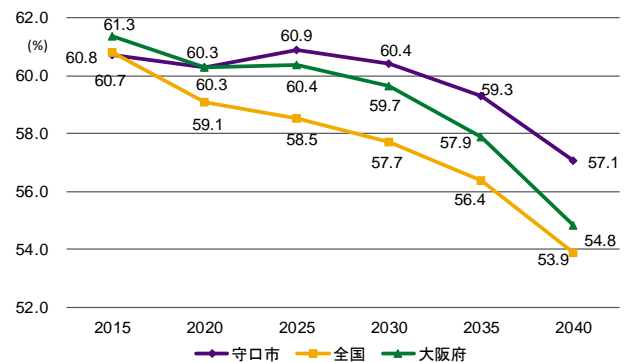
【生産年齢人口（15歳～64歳）】

- 2015年からの変化では、守口市は全国や大阪府に比べ、生産年齢人口の減少がやや緩やかとなる見込みである。
- 生産年齢人口比率は、2020年以降は全国や大阪府を上回ることが見込まれる。

図表-7 全国および大阪府の生産年齢人口の将来推計人口の推移と比較



図表-8 全国および大阪府の生産年齢人口比率の推移と比較

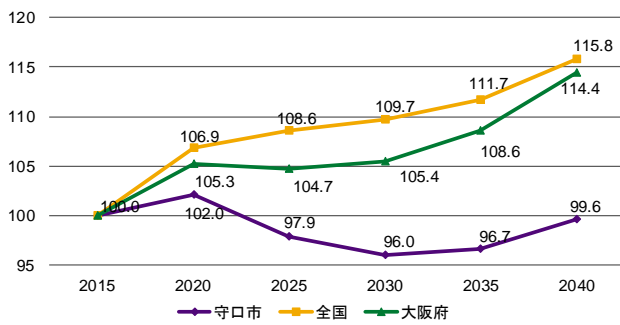


※2015年の人口を100とした場合の指数の変化。

【高齢者人口（65歳以上）】

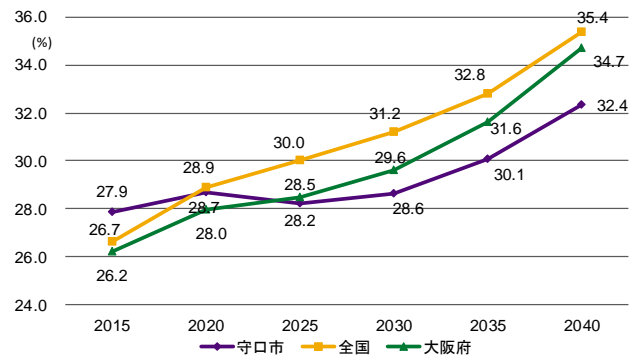
- 2015年からの変化では、全国や大阪府では増加傾向が続く一方で、守口市は2020年から2030年にかけて減少し、その後2040年にかけて緩やかに増加することが見込まれる。
- 2015年の高齢者人口比率が全国や大阪府を上回っているが、2025年以降は全国や大阪府に比べると、高齢者人口の割合は低い状態で推移する見込みである。

図表－9 全国および大阪府の
高齢者人口の将来推計人口の推移と比較



※2015年度の人口を100とした場合の指数の変化。

図表－10 全国および大阪府の
高齢者人口比率の推移と比較



3. 推計結果（地域別）

(1)方法

市全体の人口推計と同じコーホート変化率法を用いて、東部、中部、南部の3地域について各地域の2019年9月末の各歳人口を基準人口とし将来人口推計を行った。

3地域の区分は、小学校区に基づき以下の通り分けられている。なお、複数地域にまたがる町丁目については校区別の人口割合に応じて按分し、変化率は市全体の推計で設定した変化率を各地域、各年齢で適用している。

【地域区分】

| | |
|----|-------------------------------------|
| 東部 | 庭窪小学校、金田小学校、梶小学校、藤田小学校、佐太小学校、よつば小学校 |
| 中部 | 守口小学校、八雲小学校、八雲東小学校、下島小学校 |
| 南部 | 錦小学校、寺方南小学校、さくら小学校、さつき学園 |

(2)結果

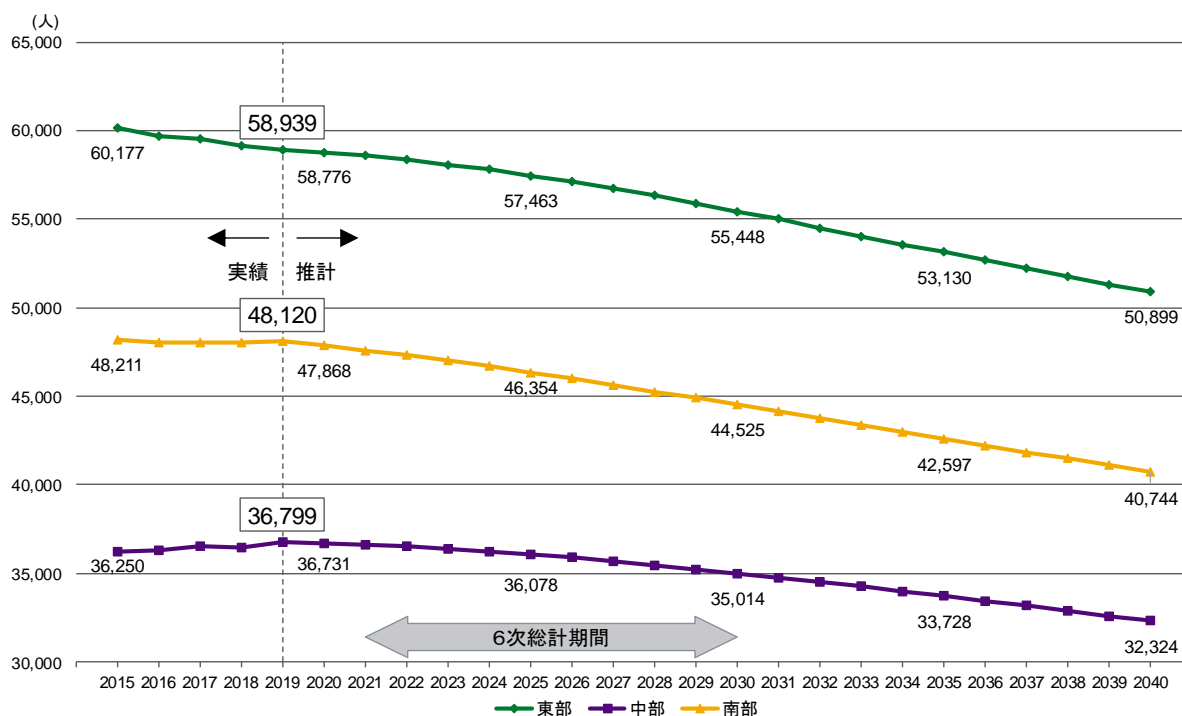
ポイント

- ◇ 南部地域は、現時点で東部、中部2地域に比べ高齢化率が高く、30%を超えているが、総人口の将来人口は2地域と比べやや緩やかに減少する見込みである。
- ◇ 中部地域では、高齢化率の推移が東部、中部と様相が異なり、一貫して増加する。また75歳以上人口のピークを迎える時期が東部、中部に比べ遅くなることが見込まれる。
- ◇ 年少人口および生産年齢人口の将来人口の推移については、3地域で大きな違いは見られない。

①3地域の総人口の推移

- 東部、中部、南部の3地域とも2040年にかけて減少が続くが、中部地域はほか2地域に比べやや緩やかな減少となる見込みである。
 - 東部地域では、2019年の58,939人→2040年には50,899人（約8千人減少）
 - 中部地域では、2019年の36,799人→2040年には32,324人（約4千人減少）
 - 南部地域では、2019年の48,120人→2040年には40,744人（約8千人減少）

図表-11 3地域の総人口の推移



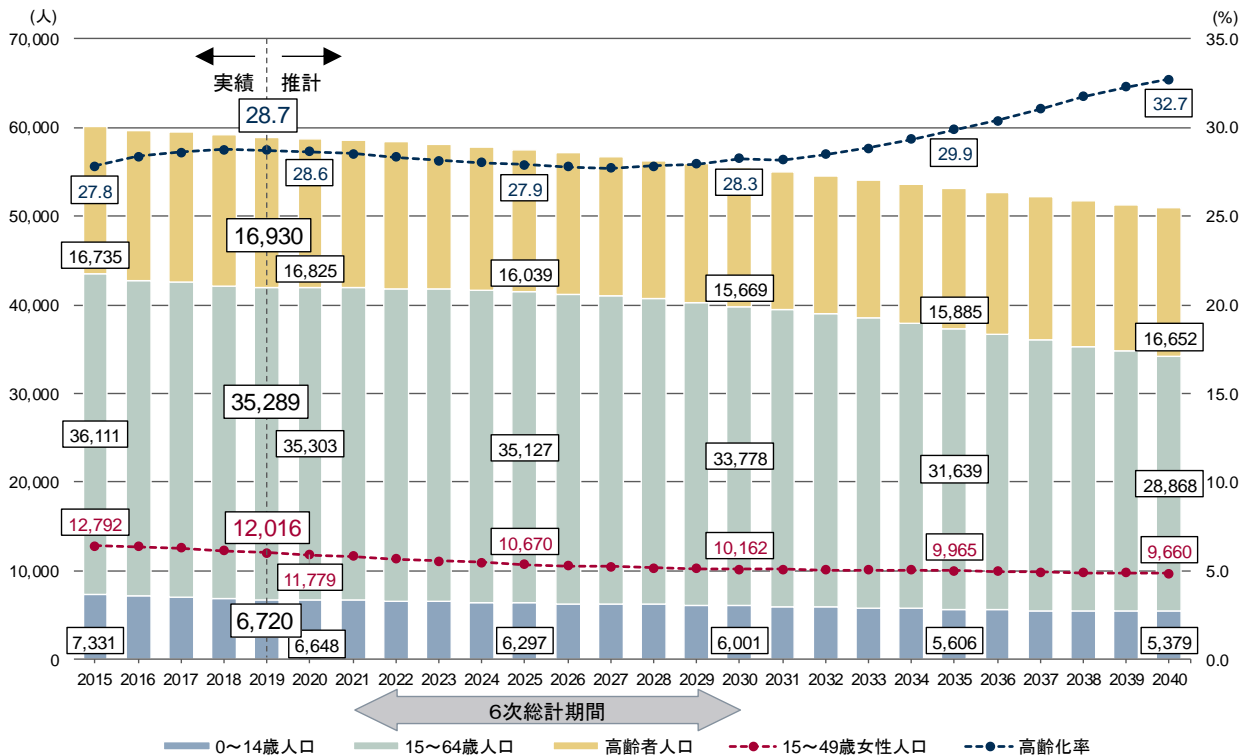
※地域ごとに再度推計しているため、3地域の推計人口の合計値と市全体の推計人口の値は一致しない。

② 東部地域

(ア) 東部地域の人口の推移

- 年少人口は、2019年の6,720人から千人以上が減少し、2040年には5,379人となる見込みである。
- 生産年齢人口は、2019年の35,289人から約7千人減少し、2040年には28,868人と3万人を下回る見込みである。
- 高齢者人口は、2019年の16,930人から2030年にかけて一度減るが、2040年には現在と同水準の16,652人となる見込みである。高齢化率は2030年までは横ばい傾向だが、2030年以降増加が続き、2040年には32.7%となることを見込まれる。
- 15歳から49歳女性人口は、2019年は12,016人であったが、減少が続き、2040年には9,660人となり、1万人を下回っている見込みである。

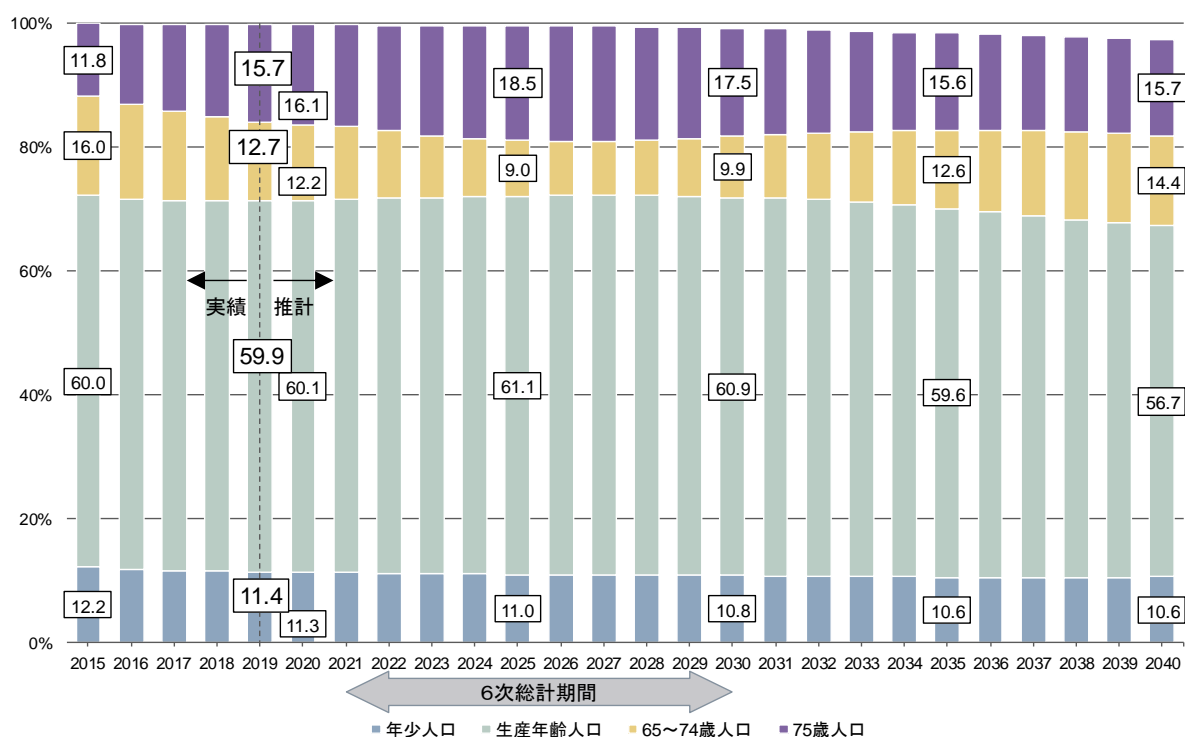
図表-12 東部地域の人口の推移



(イ) 東部地域の年齢4区分の人口比率推移

- 年少人口比率は、2019年時点の11.4%からほぼ横ばいが続く。
- 生産年齢人口比率は2019年の59.9%から2030年まではほぼ横ばいだが、2030年より緩やかに減少し、2040年には56.7%と60%を下回っていることが見込まれる。
- 65歳～74歳人口比率は、2025年にかけて減少し9%となり、団塊ジュニア世代が65歳以上となる2035年頃より再び増加する見込みである。一方、75歳以上人口比率は、団塊の世代が全て後期高齢者になる2025年頃にピークを迎え18%を超える見込みである。

図表-13 東部地域の年齢4区分人口比率の推移

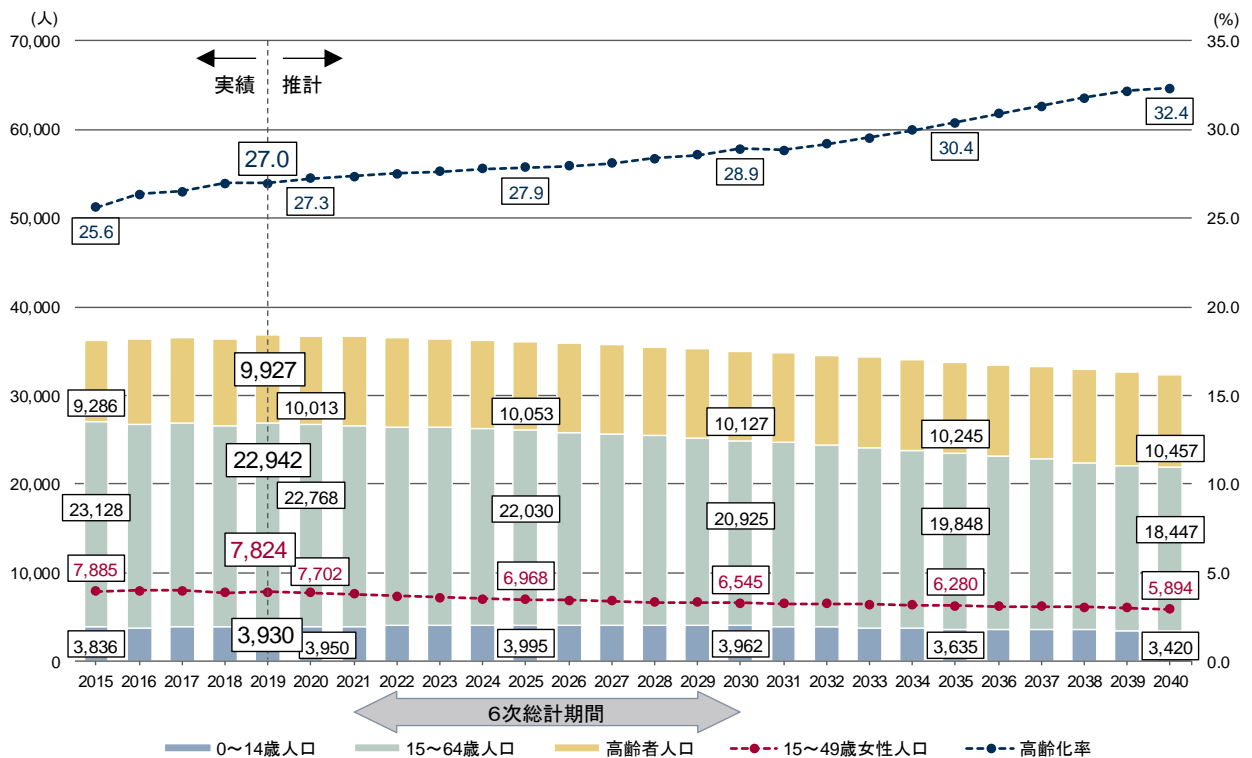


③中部地域

(ア) 中部地域の人口の推移

- 年少人口は、2019年の3,930人より、2030年頃までは横ばいが続くが、その後減少傾向となり、2040年には3,420人となる見込みである。
- 生産年齢人口は、2019年の22,942人から約4千人減少し、2040年には18,477人と2万人を下回っている見込みである。
- 高齢者人口は、2019年の9,927人から緩やかに増加し、2040年には10,457人となる見込み。高齢化率は2019年の27%から緩やかな増加が続き、2040年には32.4%となることが見込まれる。
- 15歳から49歳女性人口は、2019年は7,824人であったが、2040年にかけて約2千人減少し、5,894人となる見込みである。

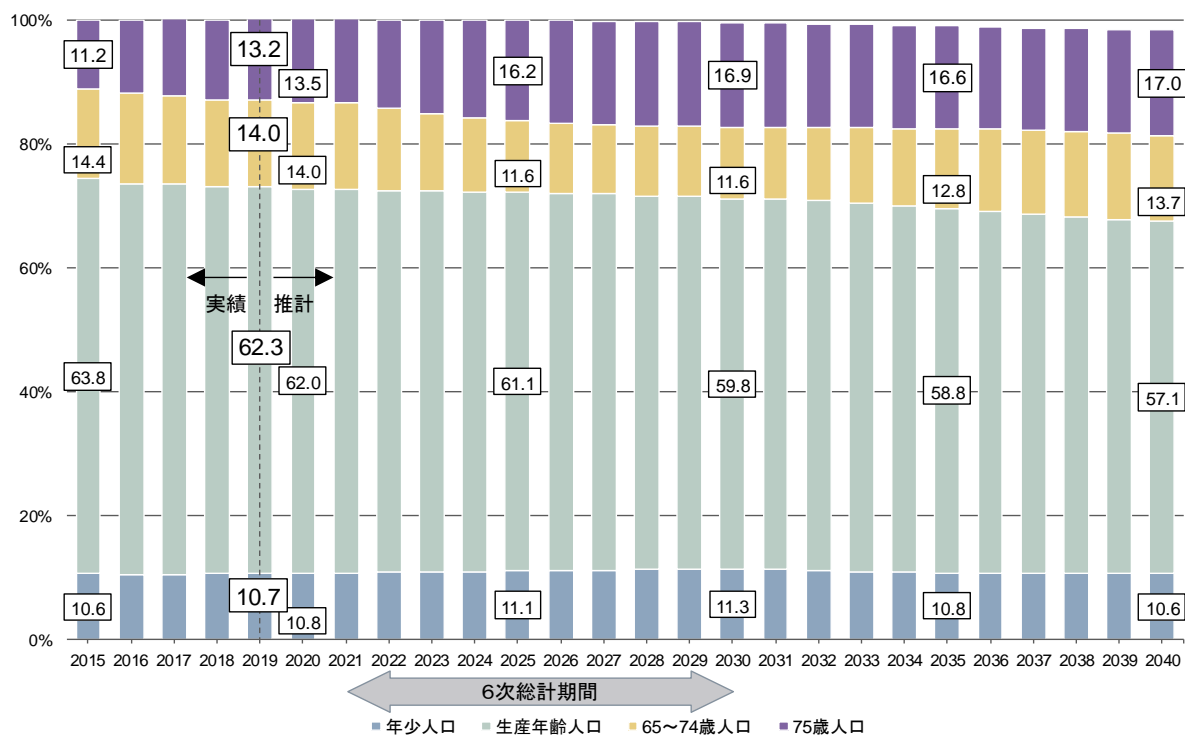
図表－14 中部地域の人口の推移



(イ) 中部地域の年齢4区分の人口比率推移

- 年少人口比率は、2019年時点の10.7%からほぼ横ばいが続くことが見込まれる。
- 生産年齢人口比率は2019年の62.3%から緩やかに減少し、2030年には59.8と60%を下回り、その後も減少が続くことが見込まれる。
- 65歳～74歳人口比率は、2025年にかけてやや減少するが団塊ジュニア世代が65歳以上となる2035年頃より再び増加し、2040年には13.7%と2019年とほぼ同水準となる。75歳以上人口比率は、団塊の世代が全て後期高齢者になる2025年にかけて増加し、その後横ばいが続き、2040年には17%となる見込みである。

図表-15 中部地域の年齢4区分人口比率の推移

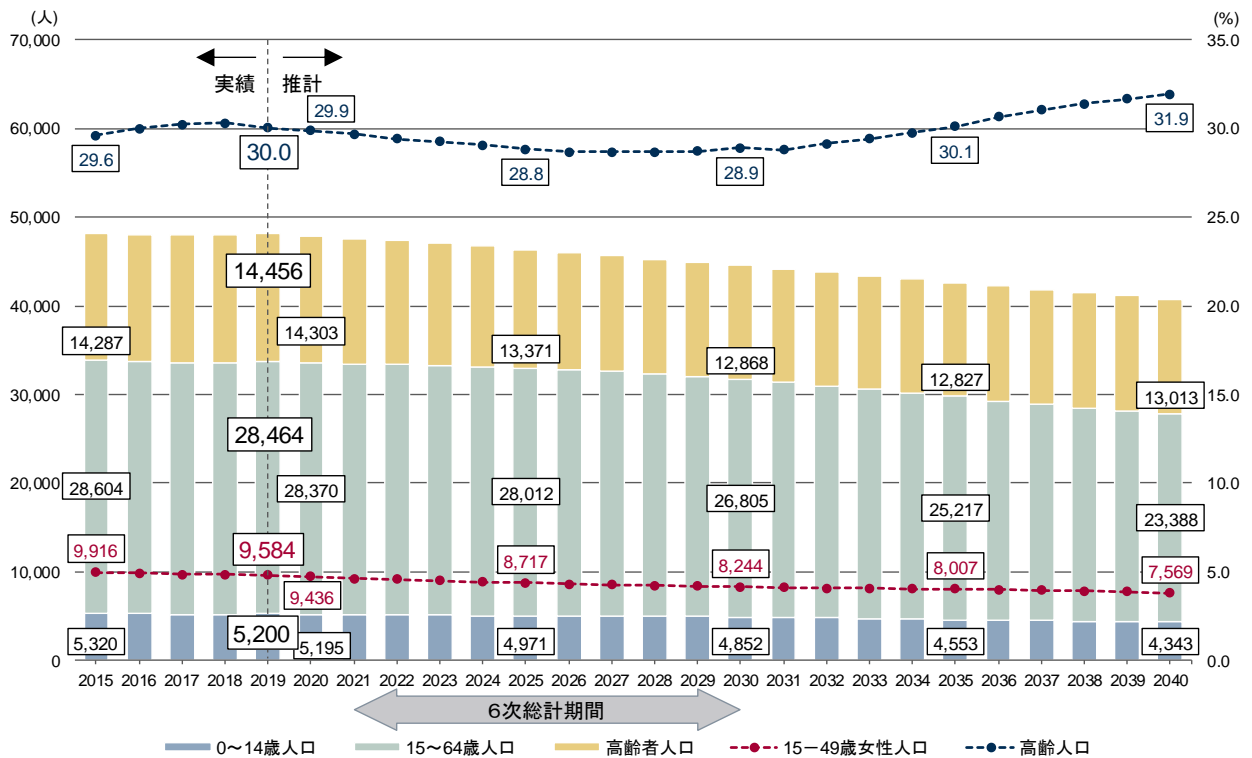


④南部地域

(ア) 南部地域の人口の推移

- 年少人口は、2019年の5,200人より、減少が続き、2040年には4,343人となる見込みである。
- 生産年齢人口は、2019年の28,464人から約5千人減少し、2040年には23,388人となる見込みである。
- 高齢者人口は、2019年の14,575人から緩やかな減少傾向が続き、一時12,000人台となるが、2040年には13,013人となる見込みである。高齢化率は2019年時点で30%と高く、2025年にかけてやや減少するが、2030年以降増加が続き、2040年には31.9%となることを見込まれる。
- 15歳から49歳女性人口は、2019年は9,584人であったが、2040年にかけて約2千人減少し、7,569人となる見込みである。

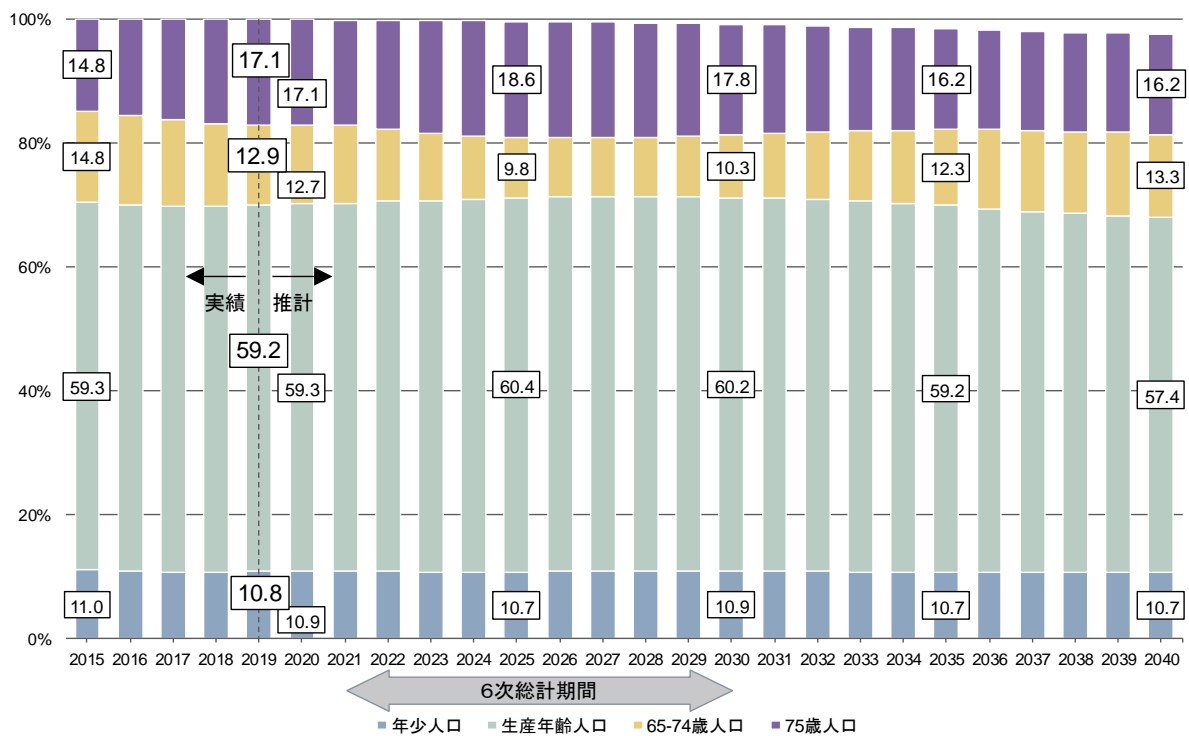
図表-16 南部地域の人口の推移



(イ) 南部地域の年齢4区分の人口比率推移

- 年少人口比率は、2019年時点の10.8%からほぼ横ばいが続くことが見込まれる。
- 生産年齢人口比率は2019年の59.2%から2025年にかけてやや増加し、60%を超えるが、その後2035年頃より緩やかに減少し、2040年には57.4%となる見込みである。
- 65歳～74歳人口比率は、2025年にかけて減少し10%を一時割り込むが、その後増加し、2040年には13.3%と2019年とほぼ同水準となることが見込まれる。75歳以上人口比率は、団塊の世代が全て後期高齢者になる2025年頃にピークを迎え、18%を超える見込みである。

図表-17 南部地域の年齢4区分人口比率の推移

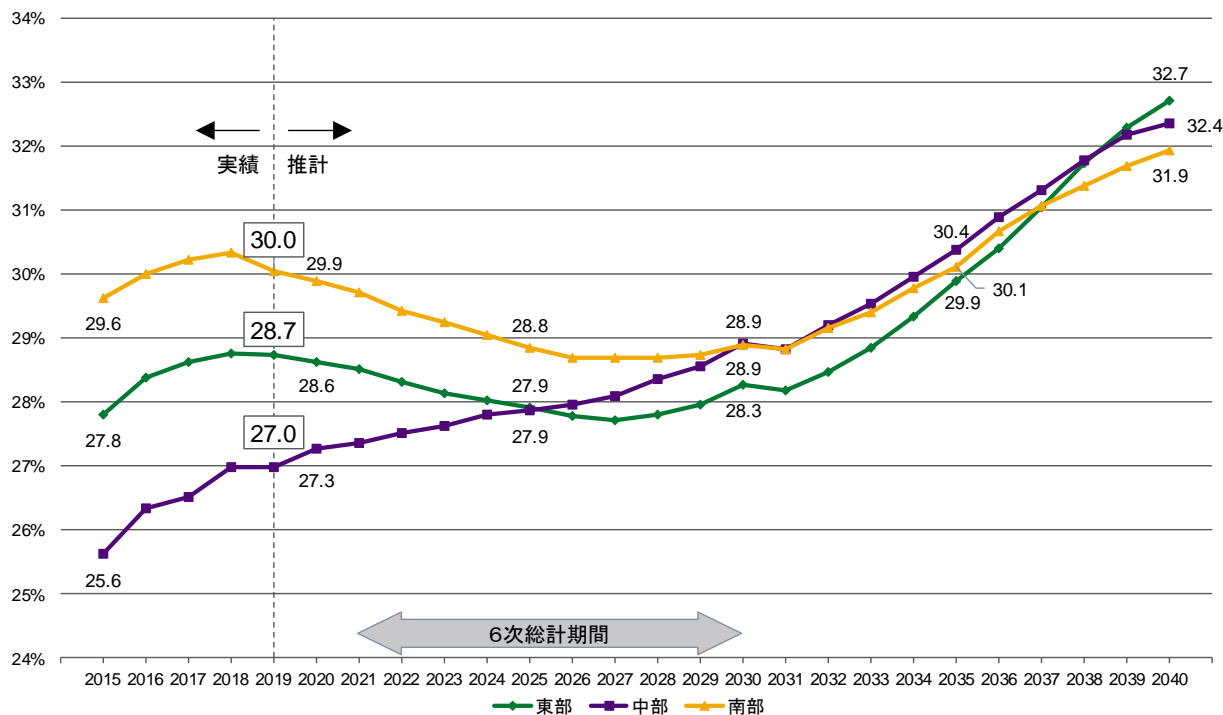


⑤3地域の比較

(ア) 高齢化率の推移の比較

- 2019年時点では、南部地域のみ30%台で他2地域より高齢化率が高くなっている。
- 2020年以降は南部地域、東部地域がいったん減少に転じる一方で、中部地域では、増加傾向が続くことが見込まれる。
- 2040年には3地域が約32%のほぼ同水準の高齢化率となる見込みである。

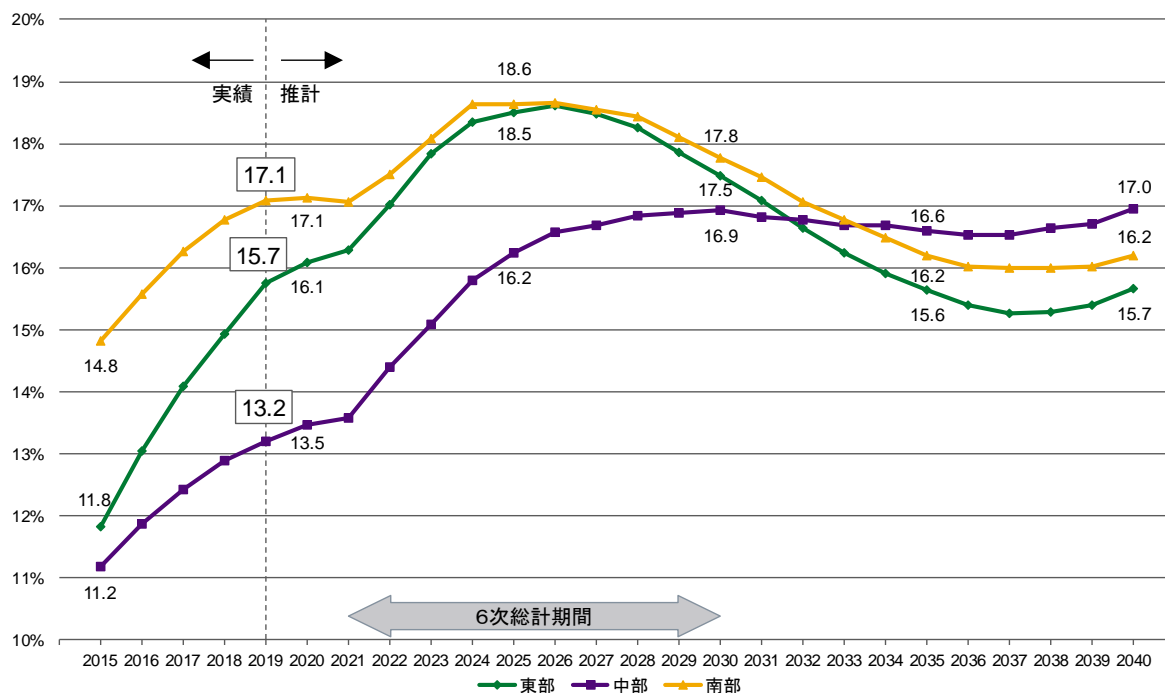
図表－18 3地域の高齢化率の推移の比較



(イ) 75 歳以上人口比率の推移の比較

- 2019 年時点では、南部地域が 17% 台と最も高く、中部地域は他に比べ 75 歳以上人口比率が低くなっている。
- 東部地域、南部地域では団塊ジュニアが 75 歳以上となる 2025 年頃にピークを迎え、その後減少するが、中部地域では、2030 年頃まで大きく増加した後、横ばいの傾向が続くと見込まれる。

図表－19 3地域の75歳人口比率の推移の比較



4. 推計の詳細

(1) 概要

コーホート変化率法では、0歳児人口と1歳以上の人口をそれぞれ算出し、その結果を合わせることで、すべての年齢について男女別、各年別の将来人口が推計される。

1歳以上の人口については、過去の実績人口から各年齢の変化率を設定し、それを用いて各年齢の将来人口を推計する。0歳児人口は、女性子ども比（0歳人口を15歳から49歳の女性人口で割って算出）と、15歳から49歳の女性人口を用いて将来人口を算出する。

(2) 1歳以上の各年齢別人口の推計

コーホート変化率法では、過去の2時点の実績から各コーホートの変化率を設定し、その変化率を将来人口の推計に用いる。

例えば、守口市の男性人口において、2014年の1歳人口539人が、2015年には529人となっているので、この場合の変化率は0.981となる。今回の推計は1年刻みで行うため、各歳で各期間同様に変化率を算出する。今回の推計では、2014年から2019年までの各期間で変化率を算出し、各年齢で5期間の変化率の平均を推計に用いる変化率として設定した。

各歳の人口推計は、基準年の人口に当該の年齢で設定した変化率をかけ合わせ、算出する。例えば、2020年の男性2歳人口は、2019年の1歳人口594人に1歳の変化率0.997をかけ合わせ592人と算出される。各年齢の変化率は推計期間で一定のものを使用しており、2021年の2歳人口を求める際にも、2020年の1歳人口585人に1歳の変化率0.997をかけ合わせて算出する。

| 年齢 | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 0歳 | 507 | 514 | 513 | 551 | 557 | 556 |
| 1歳 | 539 | 534 | 543 | | | |
| 2歳 | 538 | 529 | | | | |
| 3歳 | 514 | 536 | 538 | | | |
| 4歳 | 537 | 513 | 539 | | | |
| ： | | | | | | |

2014年から2015年にかけての1歳の変化率
 $529(2015年人口) \div 539(2014年人口)$
=0.981

【各歳・各期間の変化率】

| | 2014年⇒ 2015年 | 2015年⇒ 2016年 | 2016年⇒ 2017年 | 2017年⇒ 2018年 | 2018年⇒ 2019年 | 5期間 平均 |
|-------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------|
| 0歳→1歳 | 1.053 | 1.056 | 1.027 | 1.058 | 1.066 | 1.052 |
| 1歳→2歳 | 0.981 | 0.968 | 1.029 | 1.013 | 0.995 | 0.997 |
| 2歳→3歳 | 0.996 | 1.017 | 0.986 | 0.987 | 1.032 | 1.004 |
| 3歳→4歳 | 0.998 | 1.006 | 1.022 | 1.004 | 1.002 | 1.006 |
| 4歳→5歳 | 1.007 | 0.982 | 0.998 | 0.993 | 0.992 | 0.995 |
| ： | | | | | | |

【各歳の人口推計】

| 守口市男性人口 | | | | | | | | | | | |
|---------|--------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 年齢 | 基準年 2019年 | 2020年 | 2021年 | 2022年 | 2023年 | 2024年 | 2025年 | 2026年 | 2027年 | 2028年 | 2029年 |
| 0歳 | 556 | 518 | 508 | 498 | 488 | 480 | 473 | 467 | 462 | 456 | 556 |
| 1歳 | 594 | 585 | 545 | 535 | 524 | 514 | 505 | 498 | 491 | 486 | 594 |
| 2歳 | 580 | 592 | 584 | | | | | | | | 580 |
| 3歳 | 551 | 582 | | | | | | | | | 551 |
| 4歳 | 553 | 554 | 586 | | | | | | | | 553 |
| ： | | | | | | | | | | | |

2020年の2歳人口(男性) =
 基準年(2019)の1歳人口(594人)
 × 1歳の変化率(0.997) ※前ページ表1歳の5期間平均
 = **592**人
 1歳以降の各歳、各年で同様の計算を行う

(3) 0歳人口の推計

0歳人口の推計にあたっては、0歳人口を15歳から49歳の女性人口で割ることで算出される女性子ども比を使用した。下表のように、男児、女児それぞれで2019年までの各期間の女性子ども比を算出し、推計で用いる子ども女性比は5期間の平均から設定した。ここで設定した女性子ども比は推計期間にわたり使用した。

【女性子ども比】

| 0歳人口 | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 | 5期間平均 |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|---------------|
| 男児 | 0.0168 | 0.0169 | 0.0183 | 0.0188 | 0.0189 | 0.0179 |
| 女児 | 0.0159 | 0.0149 | 0.0169 | 0.0167 | 0.0180 | 0.0165 |

●女性子ども比 = 0歳人口 ÷ 女子15~49歳人口
 例) 2020年の0歳推計人口(男児)
 = 2020年の女子15~49歳人口(28,925人)
 × 設定した女性子ども比(0.0179)
 = **518**人

